磯子の祭景

令和元（2019）年度
杉劇アート de 伝承プロジェクト 調査・記録プログラム報告書

発行日　令和２年３月１日
企画・発行　横浜市磯子区民文化センター杉田劇場
〒235-0033　横浜市磯子区杉田 1-1-1（ちびすた新杉田４階）
電話 045-771-1212　FAX 045-770-5656
Ｅメール：sugigeki@yaf.or.jp　URL: http://www.sugigeki.jp/

磯子の祭景

令和元（2019）年度
杉劇アート de 伝承プロジェクト 調査・記録プログラム報告書

横浜市磯子区民文化センター杉田劇場

助成　一般財団法人地域創造

『磯子の祭景』発行にあたって

横浜市磯子区民文化センター杉田劇場
館長　中村　牧

当劇場は、磯子区の文化の拠点として2005年2月5日に開館し、今年で15周年を迎えました。それぞれの地域にあるお祭りは歴史もあり、独自のかたちで継承されているものの、担い手を増やしたいという声を多くの方々から聞きました。劇場運営のみならず、その地域のお祭り文化などを知り、次の世代につなげていく、文化の担い手づくりを支援していく役割も、また、杉田劇場の使命と考えています。

今回、助成金を得て3か年の継続事業<伝承プロジェクト>として、調査・記録、伝承、普及の3つのプログラムを立ち上げました。出来上がったこのDVDブック『磯子の祭景』は、伝承プロジェクトの<調査・記録プログラム>の一環として、一昨年夏から行ってきた区内の神社やお祭りについての数十回に及ぶ現地調査をふまえ、地域にみられるお神輿やお囃子などを映像に収め、こどもたちのナレーションを入れたオリジナルのものとして作成いたしました。今年度は根岸八幡神社、森浅間神社、栗木神社を取りあげ、調査にあたっては、各神社や地域の皆様のご協力をいただき、地域史や神社史の研究をしている区内在住の二人が調査員として参加し、磯子区民の視点ならではの取組となっています。

学校や町内会や神社、図書館、公共施設などに置かせていただき、一人でも多くのみなさまにご覧になっていただければ、とても有難く存じます。

最後になりましたが、今回、この冊子を発行するにあたり、取材・収集にご協力いただきました関係各所のみなさまに心より御礼申し上げます。

◇目次◇

『磯子の祭景』の構成と見どころ・・・・・ 3
根岸八幡神社・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
森浅間神社・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
栗木神社・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
資料：磯子区内の神社とお祭り・・・・・・・16
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
DVD『磯子の祭景』・・・・・・・・・・・ 巻末

「磯子の祭景」の構成と見どころ

このDVDブックは、小冊子とDVD1枚で構成されています。

DVDでは、磯子区内三か所のお祭り風景が映像になっています。笛、鉦（かね）、太鼓などのお囃子や踊り、行列の中心となって大勢で担がれるお神輿、見事な山車（だし）などを、動画と音声で楽しんでいただけます。

冊子の4ページ目からは、これらの神社やお祭りを担う人たちにお聞きした貴重なお話を紹介しています。区内神社全般のことも巻末に載せています。

DVDに収録されている三か所のお祭り風景について、それぞれの見どころを簡単にご紹介しましょう。

根岸八幡神社では、毎年8月第2週に例祭が行われます。3年に一度、「榊神輿（さかきみこし）」という珍しいお神輿が出されます。これは沢山の榊の枝を挿して傘のような形につくりあげられたものです。神社を支える人たちは氏子と呼ばれます。榊神輿は根岸町（現在は中区域内）に住む氏子の方々によって、前もって手作りされ、神社や町を練り歩きます。常緑の榊にはしおれないように水がかけられ、真夏の太陽の光が照らします。担ぐ人たちの派手な衣装との組合せも見て楽しめます。

森浅間神社は、8月14、15日が例大祭の日です。神社があるのは、京急屏風浦駅とJR磯子駅の中間あたりの山の上です。ここから力を合わせてお神輿が長い階段を町へと降ろされていく様子は迫力があります。ここでは、お囃子も盛んです。町内を回り行くお神輿の前に位置し笛や太鼓などを演奏する音によって町を清め、その後ろにお神輿、山車の順に続きます。山車は花で飾られ電線に掛かりそうなほど高さがあって立派なものです。夜には、舞台でお囃子の演奏会が行われます。

栗木神社は、8月下旬の土日に例大祭が行われました。土曜日の宵宮では、会場の栗木スポーツ広場に多くの人が集まります。お囃子が演奏されて、笛、太鼓、鉦の音色が雰囲気を盛り上げます。盆踊りなども踊られ、暗くなったところに現れるのが、栗木独特の「万灯神輿」です。明かりがともった40個の提灯をのせた幻想的なお神輿が掛け声と共に会場を練り歩く様子は、ここでしか見られません。栗木独自の歌詞もある甚句という歌も披露され、夏の一夜を地域の皆さんで楽しみます。

ねぎしはちまんじんじゃ
根岸八幡神社

ここがポイント
榊神輿の担ぎ手が派手な襦袢を着るのは、お神輿が緑一色だから、目立たせるためだという話もあるよ。

3 年に一度、緑色が清々しい榊神輿を担ぎ、華やかな襦袢（じゅばん）に身を包んだ人々が根岸の町を練り歩く。根岸八幡神社の祭礼の日、町を祓（はら）うために用意周到に作られたお神輿だ。その熱気は、真夏の太陽の日差しと、人々から溢れ出るエネルギーの両方から生まれる。

根岸八幡神社の宮崎常嘉宮司、榊神輿保存会の岸光雄会長、山本光治さんにうかがったお話をまとめました。

根岸八幡神社

JR 根岸駅から少し磯子方面に戻った所にある根岸小学校の裏手に、大きな社叢林（神奈川県指定天然記念物）に囲まれ、根岸八幡神社が鎮座している。

社殿

氏子地域（うじこちいき、その神社が守っている範囲のこと）は広く、磯子区・中区合わせて 24 か町ある。中区 6 磯子区 4 くらいの割合だ。江戸時代には根岸村という一つの村だったため、今でも区の境を越えて一つの地域として存在している。

以前は、宮神輿渡御（とぎょ）や獅子舞（ししまい）なども行われていたが、今では後継者がいなくなったため、なくなったそうだ。例祭の日には、各町内でそれぞれのお神輿や山車を巡行している所もある。その中でも出色なのが、根岸町の榊神輿だ。

ここがポイント
根岸八幡神社のご神体は、昔、海に流れ着いたものなんだって!

海との関係

この辺りは、昔はもっと海が近く漁師町だった。今では、ほとんど漁業従事者はいないが、その気質は残っている。

榊神輿海上渡御の様子
昭和 30（1955）年頃

海岸線が埋め立てられる前の昭和 30 年代中頃までは、例祭の日、榊神輿が町を回ることによって穢（けが）れを祓い集め、その後、海に入って穢れを流していた。海水で清められた榊は、煎じて飲むとお産に良い、開運につながる、と言われ、海から持ち帰った榊の葉を神社に置いておくと、みんなが取りに来たものだったそうだ。

榊神輿のはじまり

江戸時代のある日、徳川幕府の検地（土地の調査のこと）によって、今の八幡橋にある八幡神社が、根岸村から滝頭村の鎮守（ちんじゅ）に変えられてしまった。根岸の人たちは、自分たちの神様がなくなりお祭りができなくなるとがっかり…。

白滝不動尊への石段

そこで、見かねた宝積寺（ほうしゃくじ）の住職がお不動様（今の白滝不動尊）を氏神とすることにして、お祭りを復活させたのだ。その時が榊神輿のはじまりと伝えられている。

ここがポイント
江戸時代の人たちにとっては、氏神様とお祭りはとても重要なものだったんだね。

3 年に一度のワケ

その後、根岸村の氏神（うじがみ）は根岸八幡神社になったが、榊神輿は受け継がれた。広い地域を三分割し、輪番制で榊神輿を作っていた。つま

り、3年に一度、榊神輿を作る順番が自分の地域に回ってくるわけだ。

しかし、残念なことに戦争で中断してしまった。「昔のようなお祭りがやりたい」という声で、昭和60（1985）年に根岸町で復活。他の2地区では再開しなかったため、従来の慣習通り根岸町に順番が回ってくる3年に一度だけ、榊神輿の渡御が見られるという訳である。榊神輿は現代では珍しいので、平成24（2012）年に、横浜市指定無形民俗文化財に指定されている。

大迫力の滝壺清掃

榊神輿保存会　さかきみこしほぞんかい

榊神輿の年になると、根岸町祭礼委員会は忙しい。中心となるのは榊神輿保存会のメンバー42人。平成6（1994）年に結成した。現在、40～50代の男性が中心だが、榊神輿の担ぎ手は女性もＯＫ！　春には会合で計画を練り、スケジュールを組み立て、榊を保存する白滝不動尊滝壺（たきつぼ）の水質検査を行う。7月になると、寄付の受付、ポスターなどの広報、警察や保険会社への手続き、榊神輿の架台製作など準備が本格化してくる。滝壺の清掃は、消防団の協力により激しい水しぶきをあげる高圧洗浄で迫力満点だ。

ここがポイント

榊神輿は、一度始めたら絶対にやめないという熱意でやっているんだって！

祭りの1週間前になると、いよいよ滝壺に榊が運び込まれる。昔は地元で榊が採れたが、今ではすっかりなくなってしまったので、静岡の業者から2トン車1台分を予約購入している。大人の背丈ほどある大きい枝を下にして、枝振りや長さなどを考慮し、架台に順に積み上げ固定する。製作期間は1週間。暑い時期なので、完成後も祭礼の日まで榊がしおれないように毎日水やりは欠かせない。山車のてっぺんを飾るのも榊だ。

完成した榊神輿

そして例祭の朝。御霊（みたま）入れされた榊神輿・大人神輿などを神酒所（みきしょ）から根岸八幡神社へ運び、お祓いをうける。半纏（はんてん）の代わりの榊襦袢を着た人たちが、ここでお化粧をしてもらう。

お化粧してもらう担ぎ手

準備が終わると、旗持ち、お囃子、榊神輿、大人神輿、子ども神輿、山車の順に出発。午前は、根岸八幡神社から神酒所のある根岸交番そばまで、午後は交番から間門（まかど）の交差点を折り返し、不動下交差点から交番そばまで戻るという、朝から夕方までの長丁場。

ここがポイント

榊襦袢を持っていない人は、保存会から借りることもできるよ。

周辺の自治会や企業の協力も得て、アイスや冷たい飲み物などの差し入れをもらい、途中で数回休憩する。保存会のメンバーは、参加者全体への目配りも必要だ。最後は交番横の広場で、次は3年後、いつまでも担いでいたいという気持ちの「明日はねーど！」の掛け声で最高潮に。終わると、すっかり静かになった榊神輿から葉を抜いて持ち帰る。

フィナーレ「明日はねーど！」

不動囃子　ふどうばやし

行列の先頭、提灯や紅白幕で飾られたトラックの荷台で笛や太鼓を演奏するのは、不動囃子のメンバーだ。昔のお囃子会が途絶えてしまったため、岡村のお囃子会「一友會（いちゆうかい）」に教わって、平成8（1996）年から始めた。現在は根岸町在住の方に指導を受け、25名ほどで毎月2回、自治会館で練習をしている。

祭礼の日　不動囃子の演奏

もりせんげんじんじゃ
森浅間神社

森浅間神社へと続く階段

京急屏風浦駅の向かいに見える山の頂上に森浅間神社がある。東京湾越しに房総半島まで見渡せる絶好のロケーションで、戦国時代には砦（とりで）だったという歴史ある土地だ。

森浅間神社の松本小寿恵宮司、神田囃子森保存会の金子政紀会長にうかがったお話をまとめました。

境内 けいだい

ここがポイント

この石段はトレーニングにぴったり！ ボクシングの内藤大介選手、マラソンの高橋尚子選手も来たことがあるんだって。

環状２号線の「森浅間神社参道入口」の看板がある道を入り、細い坂道を上るとやがて森幼児園が見えてくる。その先の、山の中腹にあるのが下社（しもしゃ）だ。上の社殿に行くには、下社を右に曲がり、真っすぐ天に続くかのような石段をさらに上る。この石段は、奥行が狭く高さがある珍しいものだそうだ。

境内の様子

上り切ると平地が開け、社殿の前には左右とも子持ちの狛犬（こまいぬ）がある。珍しいので、安産祈願に訪れる人も多いそうだ。社殿に向かって右には神輿殿（みこしでん）があり、屋根に文化５（1808）年と記された、神社で持っている大神輿が保管されている。

ここがポイント

山の中腹の崖に横穴古墳があって、土器や人骨が発掘されたそうだ。大昔から人が住んでいたんだね。

社殿には、地域の人が使えるようにカラオケセットが置いてあり、開かれた神社である。

社叢林は神奈川県の天然記念物になっている。戦時中、ここのシイの実は貴重な食料源になったそうだ。

森睦 もりむつみ

大神輿を階段で下ろす

森睦は、昭和55（1980）年に組織された神輿保存会だ。

夏の例祭は、森睦が中心となり、二日間、地域全体で盛り上がる。元々のお祭りは６月だったが、戦後、平和を祈って終戦記念日の８月15日に変えたそうだ。お神輿の出発の時、お神輿の下に専用の板を敷き、階段の手すりを利用して慎重に下ろす。帰りには、お神輿は階段を上げず、宮司がご神体だけを手で運ぶ。その時、ご神体に息を吹きかけてはいけないので、口に半紙をくわえる。お神輿は翌日車で上まで運ぶ。

開発前の汐見台地域は、坂を上がってすぐの辺りまでしか人が住んでいなかったため、そこまでお神輿を担いで回っていたが、今は、担ぎ手の高齢化もあり、山の上の方（森６丁目なども含む）へは車に乗せて渡御している。

花山車 はなだし

男山車・女山車の２基ある花山車は、とても重いため、台の鉄輪には電車の車輪のような物を使っている。昔は牛が引いていたという。以前は花山車も大神輿と同じように上の境内から運んでいたが、今は環状２号線沿いに大きな神輿・花山車蔵ができたので、花山車・町神輿合わせて７～８基を収納している。

男山車

花山車を飾る花は、世話人が数年に一度、いっぺんに百個単位で作り直す。作り終わると充実感

女山車

があるそうだ。

花山車のてこ棒の向きを変えるだけの体力のある熟練した人が減り、前年までは2基同時に渡御していたが、令和元（2019）年は、一日目に男山車、二日目に女山車と、残念なことに、1基ずつになってしまった。

ここがポイント

山車の屋根に乗せる人形が大きいので、電線に引っかからないように足を切って小さくしたんだって！

神田囃子森保存会　かんだばやしもりほぞんかい

昔からあったお囃子を途絶えさせまいと、昭和45（1970）年に保存会を設立。昭和54（1979）年には、横浜市無形民俗文化財保存団体として認定された。現在は、子どもから高齢者まで40人ほどが会員で、女性が多く7割を占めている。初心者はまず太鼓を練習し、ひと通りできるようになると、笛・舞などやりたいものに進む。舞ができるのは7～8人、笛は10人ぐらいが吹ける。

磯子公会堂での発表

演目は14～15種類ほど。お祭りで演奏する曲は一連の流れがだいたい決まっているが、舞台で発表する時には「両国」、「かっこ回転くずし」などの違うものも演奏している。

練習は、下社を使うのが毎月2回土曜日の午前。屏風ヶ浦バイパスができる前は、ここで練習している笛の音が下の家々まで聞こえたそうだ。そのほかに毎週木曜日（ただし、5週目はお休み）の夜には森町公園で行っている。実際に音を聞いて覚える練習が中心だが、専用の楽譜も用意されている。お囃子ワークショップも開催していて、新しい人にどんどん入ってもらいたいそうだ。

ここがポイント

先祖から受け継いだお囃子を自分たちの代で絶やしてしまったら申し訳ないという気持ちで、保存会は活動しているんだ！

森浅間神社の例祭、歳旦（さいたん）祭、節分、新嘗（にいなめ）祭、花まつりなどで、見事な演奏があるので、ぜひ聴きに行ってほしい。また、毎年3月には磯子公会堂で発表会も行っている。磯子区内はもちろん、それ以外の場所でも声がかかると色々な所へ演奏しに出かけている。

幟　のぼり

例祭で立てる幟が台風で破れてしまったため、平成30（2018）年に新調した。その時に、前の物3枚を参考にしようと並べたら、明治17（1884）年の物が1枚見つかった。幟は2枚で対なので、恐らく1枚がダメになったため下ろしたのではないかと思われる。しめ縄の飾りがカラーで染められていて、「森浅間神社」の文字も素晴らしく、10メートル級の竿がないと立てられない、とても立派な物だ。

明治17年の幟

朝日不動滝　あさひふどうだき

朝日不動滝

昔は、富士講の山開きの時に修行者が白装束で滝に打たれ清めたほどの水量があったが、今は崖から染み出す程度になってしまった。

祀（まつ）られている不動明王（ふどうみょうおう）は、鎌倉時代の物とのこと。横にある制多迦童子（せいたかどうじ）と矜羯羅童子（こんがらどうじ）の石像は、昭和56（1981）年に滝を直した時の新しい物。不動明王と同時期の童子2体は壊れてしまっていたため、安置所に入れて調査する機会を待っている。

ここがポイント

昔、壊れている童子の頭を持ちだしたら、その家で不幸があったそうだ。こわ～い…。

でもお囃子会をもっていた。

「お神輿あってのお囃子」だと、御輿愛好会が軌道に乗った平成 10（1998）年からお囃子会の復活運動を開始。道具も直したり、新調したりしてそろえ、平成 14 年にくるぎ囃子会を立ち上げた。教えてくれる先生探しに苦労したが、港南区の永谷天神（ながやてんじん）のお囃子会とつながりをもつことができ、師匠になってもらい練習した。初めは全員楽器を一切やったことがない素人だったが、今では、上笹下（かみささげ）地区連合町内会の賀詞交換会（がしこうかんかい）や、他地区のお祭りにも呼ばれるほどになった。毎週土曜日には栗木町内会館で練習を行っている。

宵宮（よいみや）でのお囃子

ここがポイント

永谷天神のお囃子会に教わったから、くるぎ囃子は天神囃子なのだ。

栗木甚句と万灯神輿　くるぎじんく と まんとうみこし

7～8 年前、御輿愛好会で相州（そうしゅう）の「どっこい神輿」をやってみたいという話が出て、オリジナルの栗木甚句を作った。どっこい神輿とは、甚句という七・七・七・五調の歌詞の歌に合わせて担ぐお神輿で、歌の合間に「どっこいどっこい、どっこいそぉりゃ」と掛け声を掛ける。「ソイヤ！セイヤ！」、「わっしょい！わっしょい！」という荒々しい担ぎ声とは違い、全体にゆったりとした穏やかな印象だ。甚句は今では 10 種類ほどあり、歌い手の年齢は上は 80 代、下は 40 代と引き継がれている。どっこい神輿は値段が高いので、持っている江戸神輿に提灯を 40 個つけて万灯神輿に改造した。栗木スポーツ広場で開催する宵宮で、暗闇の中、灯りを入れて練り歩く姿は、伸びのある見事な歌声の甚句と共に郷愁を感じさせる。

宵宮での万灯神輿

上笹下六ヶ町　かみささげろっかちょう

明治時代、国の政策で全国的に神社の統合が進められた。上笹下六ヶ町と呼ばれる田中（田中神社）、栗木（栗木神社）、矢部野（現洋光台地域。金山神社）、上中里（上中里神社）、峰（峰白山神社）、氷取沢（氷取沢神社）の神社も、今の栗木神社の場所に集めて、「上笹下神社」にしたことがあった。戦後、それぞれの場所に戻ったが、その縁で、今でも六ヶ町の結びつきはとても強い。右の写真は、明治 42（1909）年の上笹下神社創立記念の時のもので、社殿の前にある椿（つばき）の木は、現在はない。樹齢 400 年ほどだったが寿命で枯れたため伐採し、コマ札として生まれ変わった。

明治 42 年 上笹下神社

例祭での提灯（ちょうちん）

ここがポイント

上笹下六ヶ町には、六ヶ町神社会があって、お祭りなどで協力しあっているよ。

平成 25（2013）年は、上笹下六ヶ町でそれぞれの神社に一緒にお神輿を作ってから 80 周年ということで、お神輿を 6 基集めて大合御（だいごうぎょ）を行った。90 周年にも六ヶ町で何か一緒にできればと、曽根さんは考えている。

磯子区内の神社とお祭り

名称	住所	お祭の日程	連絡先
根岸八幡神社	西町 1-1	8 月第 2 土曜	753-6666
八幡橋八幡神社	原町 10-9	8 月第 1 土日曜	751-5867
（上町）白山神社	上町 12	11 月 17 日	751-8326 中島
岡村天満宮	岡村 2-13-11	8 月 24・25 日	751-2008
日枝神社	磯子 4-3-11	8 月第 1 土日曜	751-3893
森浅間神社	森 2-16-7	8 月 14・15 日	841-3887
熊野神社	中原 4-24-17	8 月第 3 土日曜	771-6534
杉田八幡宮	杉田 5-2-1	8 月第 4 土曜と翌日の日曜	774-0579
若宮御霊神社	洋光台 1-13-49	9 月下旬の土日曜	841-3887 ※1
金山神社	洋光台 3-35-10	秋分の日	771-6534 ※2
田中神社	田中 2-6-25	8 月第 1 土日曜	771-6534 ※2
栗木神社	栗木 2-13-21	8 月下旬、9 月中旬	771-6534 ※2
峰白山神社	峰町 623	8 月 16 日	751-2008 ※3
上中里神社	上中里町 441	9 月 28 日	751-2008 ※3
氷取沢神社	氷取沢町 221	9 月 15 日近辺の土日曜	751-2008 ※3

（備考）
・登載神社については、神奈川県宗教法人名簿所収神社のほか、史料に記載があり地域で存続されている（上町）白山神社を加えた。
・神社名称は一般的な通称。住所はすべて「横浜市磯子区」。
・お祭りの日程については、前後の行事日程が加わる場合もあり、また変更になることもあるので、見学等の場合には確認が必要。
・連絡先のうち、電話番号が※印の場合は下記の神社の電話となる。
※1 森浅間神社
※2 熊野神社
※3 岡村天満宮

地域の文化資源　神社とお祭り

現在の磯子区域には、左表のように 15 の神社がある。

これらは全て江戸時代の文献にも載っていて、歴史的な価値のあるものだ。昔は村ごとに一社の「村の鎮守」があり、その他数社があった。現在に続いている神社の多くは村の鎮守だった。村の守り神であり、村人の心のよりどころだ。

人びとは昔から季節の節目になると神社に集まってお祭りを行った。その代表的なものが例祭であり正月や七五三である。例祭は神社の誕生日だから、一社ごとに日取りが異なっている。現在では 8 月に 10 社、9 月に 4 社、11 月に 1 社となっている。もともと 9 月だったのを夏休みの 8 月に変えたというところもある。旧暦の 9 月は現在の 10 月で収穫の終わったころだ。1 年の実りを感謝して来年への祈りを捧げる。

江戸時代からの村は、当時戸数が大体数十軒、お祭りには皆こぞって参加した。神社では神職が神事を行い、神さまをのせたお神輿が村の中を回った。境内では音楽や舞踊りなどが奉納され、ご馳走を食べお菓子が配られた。子どもにも大人にも楽しみの場であった。

それから二百年ほど後の現在でも、地域のお祭りは続いている。埋立前の海辺の地域ではお神輿を担いで海に入った話が伝わっている。お神輿が町中を巡ったり、お囃子の音色に合わせて、地域の人たちが、共に楽しみ、交流して、この町で安心して暮らせることを喜び願う。お祭りは各地域ならではの、文化活動の発表、鑑賞、交流の場とも言える。

このようなお祭りは、それぞれ地域の人たちが担ってきた。長い歴史のなかで、途絶えそうになったこともあったようだが、その都度熱意ある人たちが復活したり再興させたりしてきた、という。

神社とお祭りは地域の貴重な文化資源なのである。

編集後記

昔、磯子に住み磯子で働いていたが、夏祭りを見たことは皆無…。今回初めて見学し、改めてすごい歴史と面白さを感じました。栗木のお神輿が町内を渡御するなかで、金台寺で休憩したのにはビックリ♪（多根）

真夏の炎天下、お祭りに関わる地域の皆さまとスタッフの熱意がこもった、渾身の一冊と映像です…是非ともお楽しみください！（清水）

梅雨に始まったお神輿の制作風景から真夏の猛暑の中お神輿を担ぐ人達の懐まで入って撮影をすることで、臨場感ある映像になったかと思います。地域の人達の歴史と文化と情熱が伝われば幸いです。（木村）

伝承プロジェクト発足とこのDVDはスタッフの一員としても画期的だと思います。館長の発意と英断があり、地域の皆様が大きな力を下さいました。歴史や伝承を大切にして新しい文化となりますように。（小沢）

お祭りを継承している方々からお話を伺い、同じ区内でも開催時期、お神輿の掛け声・足さばき等にそれぞれ違いがあると知りました。掲載した三社のお祭り風景を見比べて特徴を発見してください！（鈴木）

スタッフ

総括　：中村　牧（杉田劇場館長）
制作　：大西　稔彦、多根　雄一、清水　一徹（杉田劇場職員）
〈冊子〉
執筆　：小沢　朗、鈴木　美奈子（伝承プロジェクト調査員）
写真協力　：曽根　武夫氏、長谷川　妙子氏、森浅間神社
〈DVD〉
撮影・編集　：木村　敬一、木村　知子
ナレーション：杉劇☆歌劇団団員

本書及びDVDを無断で複製・公に上映・送信・翻訳・翻案などの利用をすることは、著作権法で認められる場合を除き禁じられています。